



いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

わたしたちの矢上川

本校は、鶴見川とその支流である矢上川の間位置する場所にあり、子どもたちにとって川は身近な存在です。しかし、その実態をよく知る児童は少なく、もっと地域の川に愛着をもってほしいと思い、この活動を設定しました。

4年生の社会科では、「人々の健康や生活環境を支える事業」の単元で、飲料水と下水道の学習を行いました。その際に、矢上川で遊ぶ会の方々をゲストティーチャーにお招きし、水処理場の排水が矢上川に流れる際に、生物にとって害にならないような配慮をしていることを学びました。また、



矢上川の昔の様子と今の様子を比べて、実際に矢上川に入り、生き物と触れ合ったりする活動を通して、川には多様な生き物が生息していることや、その環境を保ってきたのは何十年にも渡って川を守ってきた人々の努力があったことを学びました。さらに「県内の先人の働き」の単元では、地域を流れていた川崎市の「ニヶ領用水」



を取り上げ、矢上川との結びつきを学びました。

このように身近にある矢上川について自ら課題を設定し調べていく学習を通して、子どもたちは地域に愛着をもっていきました。

また、教科等の学習と関連付け、子どもたちの思いや願いを大切にして体験活動を計画することで、主体的に課題解決しようとする姿につながったようです。

活動後は、自分で調べた課題を学年で伝え合う発表会を行いました。今後は、学んだことを地域に向けて発信するなど、さらに深い学びとしていきたいと思っています。

かわさきしりつみなみか せしやうがっこう
(川崎市立南加瀬小学校)

江奈湾 カニの観察会

7月に江奈湾のカニの観察会があり、剣崎小学校の子どもたちが参加しました。前校長先生を講師に迎え、江奈湾を巡って生き物を観察しました。



アカテガニの観察

まずは西側の泥干潟を目指しました。干潟に続くアシ原の細道を抜けると、早速アカテガニが顔を見せてくれました。捕まえて腹側を見てみると、メスは卵を抱えています。



アシ原の細道を抜ける

次は干潟を歩きました。見渡してみると、コアマモという海藻の仲間が一面に生えています。泥の上をよく観察すると、一生懸命はさみを振るチゴガニがいました。砂交じりの場所にはコメツキガニもいます。



干潟を歩く

最後に、学校の前の干潟に移動しました。砂と岩場の干潟は歩きやすく、子どもたちは自由に生き物を探しました。石をひっくり返してみると、大きなイシガニが隠れていました。流れ藻と一緒に流れ着いたのか、小さなサザナミフグの幼魚を捕まえた子もいました。



サザナミフグの幼魚

参加した子どもたちは泥だらけになりながらも、学校の目の前にある貴重な自然とそこに棲む生き物とのふれあいを楽しみ、生命の神秘、大切さを改めて感じていました。

みうらしりつげんぎきしょうがっこう
(三浦市立剣崎小学校)

私たちの自慢の金目川を守ろう！

平塚市立金目小学校の4年生は、総合的な学習の時間で、学校のすぐ近くを流れる金目川について学習しています。鳥を見たり、魚を捕まえたり、季節の植物を見て自然を感じたり…子どもたちが大好きで自慢の金目川。でもどうやって金目川ができたのか、また、どんな魚が何種類いるのか分からないこともたくさんありました。



魚を捕まえるための網の使い方の説明

そこで、東海大学の先生や学生、そして地域の方に詳しく話を聞き、理解を深めました。また、歴史・魚・鳥・植物・水質・石についてのグループに分かれ、本やインターネットで調べながら、ポスターや本を書いたり、劇を作ったりしました。ポスターや本、劇は学習発表会で保護者に見ていただいたり、地域のお店に掲示していただいたりしました。



魚やエビ、カニを捕まえました

「金目川をみんなで大切にしていこう」という気持ちをたくさんの人にもってもらいたいと思って活動しています。

ひらつかしりつかなめしょうがっこう
(平塚市立金目小学校)

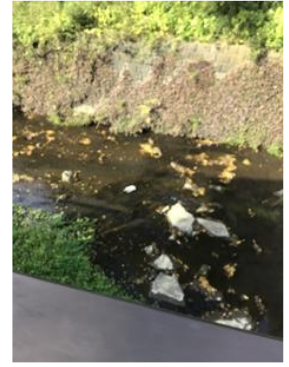
大すき！黒須田のまち 大すき！黒須田川

黒須田のまちたんけん子どもたちが気になった黒須田川。鶴見川流域ネットワークの方々とつながり、川の歴史や、棲んでいる生き物についてオンラインで教わりました。オンライン学習では、川の環境が改善されたことで、生き物が川に戻ってきたことを知りました。実際、川に行ってもどのような魚がいるのか調査も行い、様々な種類の魚たちがいることも分かりました。しかし、実際に見てみると、様々なゴミが川に落ちていることが分かりました。子どもたちは、川の環境を守るため、「ポスターをつくって、貼る」というアイデアを考えました。しかし、「自分たちの作ったポスターがはがれて、川に落ちてしまうと、ゴミになって川を汚してしまう」と考え、自分たちが知ったことを、学校ホームページで発信しようという考えにたどり着きました。

大好きな黒須田のまちのために、環境に配慮した発信方法を考えた子どもたち。これからも、地域の一人として、川や水を大切にしていきたいです。**(横浜市立黒須田小学校)**



黒須田川的环境調査



川に落ちているビニールごみ

地域とつながるビオトープ

東柏ヶ谷小学校は町の中にある学校です。近くには川も海もありません。その代わりに地域の方々に作っていただいたビオトープ（2015年完成）があります。

普段、ビオトープでは、金魚やメダカを飼育しており、主に飼育委員会がエサやりや周辺の清掃、落ち葉取りをして管理しています。地域連携の取り組みとして、夏休みにビオトープの清掃や水の張替え等を地域の方の協力のもと、行っています。

ビオトープができてから、自然とヒキガエルが産卵するようになりました。卵からカエルになるまでの成長過程の観察や1年を通してビオトープ周辺の環境や動物の活動の変化を観察することができます。（低学年生活科、3年生「しぜんかんさつ」、4年生「あたたかくなったら」、5年生「魚のたんじょう」）

ビオトープで1つの生態系ができていますので、プランクトンの採集や水が汚れたり、減ったりすると環境にどのような影響を及ぼすかを児童が具体的に学習できるようになっています。（6年生「生物のくらしと環境」「人と環境」）

(海老名市立東柏ヶ谷小学校)



地域の方と一緒に夏休みのビオトープ清掃



夜に産卵するヒキガエル

た こしがわちよう さたい 田越川調査隊

沼間 小学校3年生は社会科の時間に東西南北のコースに分かれ、町たんけんに出かけました。すると、どのコースにも川が流れていることに気がつきました。川の名前を調べてみると全て田越川ということがわかりました。するとこの川は全部つながっているのか？どこからどこに向かって流れているのか？生き物は棲んでいるのか？など様々な疑問が出てきたので、総合的な学習の時間に田越川について学習することになりました。

まずは、い（生き物）か（川の様子）は（橋の名前など）し（自然の様子）をキーワードに田越川を辿っていきました。すると川が全部つながっていることや海に向かって流れていることがわかりました。また、どんな生き物が棲んでいるのかなど生き物や自然に対する疑問が多く出たので、田越川の生き物や自然の様子に詳しい地域の方にお話を伺いました。昔はすごく汚くて生き物もあまり生息していなかったが、人々の努力の成果が現れ、今では蛍が見られるほどきれいな川になりましたが、まだまだゴミが多く、定期的に地域の方が掃除をしていることがわかりました。田越川の現状や課題がわかった子ども達は、田越川をきれいにしたいという気持ちが強くなり、実際に川に入り清掃を行うことになりました。川に入ってみると上から見るとよりかはるかにゴミの量が多く、驚いている様子でした。

今回の学習を通して感じたことや伝えたいことを新聞や絵本、ポスターにまとめ全校児童に向けて発信しました。
（逗子市立沼間 小学校）



地域の人の話を聞く様子



田越川の清掃を行う様子

さかわがわすいけい ほぜんかつどう 酒匂川水系メダカの保全活動

白山中学校では2016年から酒匂川水系メダカの飼育・繁殖活動を行っています（写真1）。理科室の外には繁殖用の水槽を設置し、毎年メダカの稚魚を孵化・飼育をしています（写真2）。また、職員玄関には酒匂川水系メダカとヒメダカを比較できる水槽を設置し、形質の違いや、酒匂川水系メダカの保全の必要性について伝える活動を行っています。

春から夏にかけて、メダカがより多く産卵するための方法について調べる研究を行っています。水草だけではなく、産卵場所を手づくりしながら様々な材質や形を工夫し、メダカの産卵により適したものを探っています。

これからも継続して活動し、酒匂川水系メダカの保全に役立てていきたいです。

（小田原市立白山中学校）



写真1：孵化・稚魚飼育用水槽



写真2：屋外の繁殖用メダカ水槽